| | |
|---|---|
| 事例No. | 2800 |
| 公表年度 | R5 |
| 団体の属性 | その他 |
| 団体名 | 岩手県立大槌高等学校復興研究会 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 地域活性化 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・消防・防災<br>・教育・子育て<br>・関係人口 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 関係人口 |

事例内容・タイトル

震災の教訓を語り継ぎ、災害に備える

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集



震災の教訓を語り継ぎ、災害に備える

# 岩手県立大槌高等学校復興研究会

## DATA

事　例　名：岩手県立大槌高等学校復興研究会
所　在　地：岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-71-1
連　絡　先：TEL 0193-42-3025
　　FAX 0193-42-4966
ホームページ：http://www2.iwate-ed.jp/oht-h/

## 取り組みの概要

大槌町唯一の高等学校である大槌高校は、東日本大震災発災後、生徒たちが自身も被災をしながらも有志として積極的にボランティア活動に参加した。2013年に生徒自身が有志の活動を総称して「復興研究会」と名付け、現在に至るまで活動を続けている。年3回、同じ時期・場所・角度から大槌町の変化を撮影する「定点観測」や、大槌町のこども園や学童施設で子どもたちの相手をする「キッズステーション」、県内外から復興を学びに来校する中学生や高校生に震災の教訓を伝える「他校交流」など、復興過程の記録や伝承、大槌町の活性化に貢献した。

## 評価された点

●高校の部活動ではなく、有志の活動として2013年から継続しており、定点観測のほか、学童施設のイベント補助活動、防災紙芝居など、防災を軸とした活動を継続的に行っている点を評価。

●震災後の地域の復興に向けて、情報を定点観測したり、地域外への情報発信や連携などを行いながら、地域のつながりの拠点として活動を展開している点を評価。

●定点観測をはじめ、キッズステーションや他校との交流など、高校生たちは地域の過去と地域の将来をつなぐ貴重な役割を果たしている。こういった活動に参加した方々やこれから参加する方々を評価したい。

●震災復興に向けた取り組みで、高校生ができること、しなければいけないことを自覚的に取り組んでいることを評価。その技法は定点観測、紙芝居等であるが、これから大きくなる小中学校生、地域の人々、地域外からくる高校生に向けて周到に観察、表現がなされており、風化が進みつつある被災地の高校として、この取り組みを高く評価したい。

## 取り組みのプロセス

**取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題**
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

**行政や外部からの支援**
行政や外部からの支援などについて記載。

**きっかけ　2011年3月11日**
・東日本大震災。

**2013年～**

・高台にある大槌高校が津波の被害を逃れ避難所となった。
・当時の大槌高校生も避難所運営を手伝い、その後もボランティア活動に参加した。

**復興研究会発足**
・定点観測。
・キッズステーション。
・他校交流。
・広報。



**2015年～**

・大槌町で盛り土工事が行われた。
・定点観測活動の支援。

**工事区域内での定点観測**
・大学・工事現場の協力のもと定点観測を続けた。



**2019年～**

・「ぼうさい甲子園」から教訓の伝承の大切さを生徒が学ぶ。

**防災紙芝居**
・震災当時小学2年生だった生徒たちが自身の教訓をもとに3本の紙芝居を制作。



**2020年～**

・感染症の影響で伝承活動が難しくなった。

**防災絵本**
・岩手県沿岸部小学校に寄贈。
・交流のあった団体や問い合わせのあった個人や団体に寄贈。

**2022年～**

・定点観測パネルに住民から「当時の思い出」を募集する。



**今後の展望**
・震災の教訓の伝承。
・教訓を生かした防災活動。
・町づくり活動への参加。

## 受賞者のコメント

名誉ある賞を頂き大変嬉しく思います。大槌高等学校復興研究会は、2013年の発足当時から、大槌町にある唯一の高等学校として地域と関わり続けてきました。私たちの活動は、参加した在校生や卒業生、大槌町役場をはじめとする地域の方々、そして、今日まで本校とつながりを持ってくれた世界中の方々によって成り立っています。これからも、大槌町の活性化のため、震災を語り継ぐためにさまざまな活動を行ってまいります。今後ともよろしくお願いいたします。